

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。
先行きについては慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲54.5と、前期比で7.9ポイント減少し、7期ぶりに悪化した。業種別では、製造業は6期ぶりに悪化し、非製造業は2期ぶりに悪化した。
- 景況感の先行きD Iは▲21.2と、前回調査比で4.4ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は19.3%で、4期ぶりに減少した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和3年10～12月期、「当期」：令和4年1～3月期、「来期(先行き)」：令和4年4～6月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲54.5となり、7期ぶりに悪化した。前期比で7.9ポイント減少し、前年同期比では6.6ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲51.6)は6期ぶりに悪化し、非製造業(▲56.7)は2期ぶりに悪化した。

<景況感D Iの推移>

	当 期 (R4.1-3)	前 期 (R3.10-12)	前年同期 (R3.1-3)
全 体	▲54.5	▲46.6	▲61.1
製 造 業	▲51.6	▲42.8	▲59.2
非製造業	▲56.7	▲49.4	▲62.6

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は8.2%（前回調査(R3.10-12月)比▲0.2）、「悪い方向に向かう」とみる企業は29.4%（前回調査比+4.2）だった。

先行きD Iは▲21.2（前回調査比▲4.4）と、2期ぶりに悪化した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R4.4-6)
全 体	8.2%	29.4%	▲21.2
製 造 業	9.7%	27.8%	▲18.1
非製造業	7.0%	30.5%	▲23.5

2 売上げについて

売上げD Iは▲37.0（前期比▲24.1）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R4. 1-3)	前 期 (R3. 10-12)	前年同期 (R3. 1-3)	来期見通し (R4. 4-6)
全 体	▲37.0	▲12.9	▲45.7	▲19.3
製 造 業	▲33.3	▲2.0	▲36.0	▲12.6
非製造業	▲39.8	▲21.2	▲52.9	▲24.5

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲31.7（前期比▲13.3）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R4. 1-3)	前 期 (R3. 10-12)	前年同期 (R3. 1-3)	来期見通し (R4. 4-6)
全 体	▲31.7	▲18.4	▲32.8	▲23.8
製 造 業	▲29.7	▲15.1	▲26.7	▲21.3
非製造業	▲33.2	▲20.8	▲37.4	▲25.6

4 採算について

採算D Iは▲42.6（前期比▲16.9）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R4. 1-3)	前 期 (R3. 10-12)	前年同期 (R3. 1-3)	来期見通し (R4. 4-6)
全 体	▲42.6	▲25.7	▲45.2	▲29.4
製 造 業	▲39.2	▲21.7	▲37.2	▲25.2
非製造業	▲45.2	▲28.6	▲51.1	▲32.6

5 設備投資について

実施率は19.3%となり、4期ぶりに減少した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに減少し、非製造業は3期ぶりに減少した。

来期については、製造業は当期の実施率より増加し、非製造業は当期の実施率より減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R4. 1-3)	前 期 (R3. 10-12)	前年同期 (R3. 1-3)	来期見通し (R4. 4-6)
全 体	19.3%	22.6%	19.3%	18.1%
製 造 業	22.1%	27.2%	22.7%	22.7%
非製造業	17.2%	19.2%	16.7%	14.6%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・中国向けの半導体関係、自動化設備需要が継続しており、好況である。
- （輸送用機械器具）・半導体不足に加え、感染再拡大による取引先の工場停止の影響もあり、不況である。
- （プラスチック製品）・医療機器、食品機械関連の需要が続いており、好況である。
- （銑鉄铸件）・原材料費の高騰が続いており、不況である。
- （百貨店）・若干の回復兆しあるものの、コロナ禍前ほどではない。
- （商店街）・まん延防止等重点措置の期間中は営業自粛をしている店舗が多い。
- （情報サービス業）・DXへの取組が増加する一方で、コロナ禍の影響で情報化投資の抑制、延期がみられる。
- （建設業）・昨年のような好況感はない。在庫が不足しており、売上高も横ばい傾向である。

【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・前年には半導体関連需要で売上高が戻っており、前年同期比ではほとんど変わらない。
- （プラスチック製品）・原油高騰で原材料全般にマイナスの影響が出ている。
- （金属製品）・原材料価格と電気代の増加により、採算性が悪化した。
- （食料品製造）・前年の巣籠もり需要に比べて落ち着いており、売上高は減少した。
- （スーパー）・売上高、客数は前年同期比増加となったが、客単価は前年割れとなった。
- （旅行業）・例年1～2月は閑散期だが、感染再拡大の影響で更に減っている。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・経済活動の正常化が不透明であり、どちらともいえない。
- （輸送用機械器具）・自動車業界の部品不足が長期化しており、どちらともいえない。
- （金属製品）・ウクライナ情勢の影響により、先行きは不透明である。
- （印刷業）・原材料価格が高騰しており、どちらともいえない。
- （百貨店）・厳しい状況は変わらず、どちらともいえない。
- （旅行業）・感染症が収束に向かうとの希望的観測も含め、良い方向に向かうとみられる。
- （建設業）・感染症の動向やウクライナ情勢により、悪い方向に向かう可能性がある。